



図書館雑誌では、「北から南から」欄への会員のみなさまからの投稿をお待ちしています。館界や本誌へのご意見、個人やグループなどの活動報告、研究成果、また、日常業務の中で工夫していることなどを、下記の要領でお寄せください。

★字数：1200～3800字程度（図版・写真を含む）

★様式：400字詰め原稿用紙またはワープロを使用

★送り先：〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

日本図書館協会 図書館雑誌編集委員会「北から南から」係  
(FAX (03)3523-0841でも受け付けいたします)

## 米国公共図書館における電子書籍の利用

2010年の日本は、「電子書籍」元年といわれ、新聞やテレビがはやしていたが、それが図書館にどのような影響があるのかについてはあまり語られていない。米国では公共図書館での電子書籍の利用がかなり前から行われているので、その実態を知ることが日本の図書館人にとって役に立つと思われる。昨年（2010年）6月に米国の2公共図書館を訪問して調査を行ったので、その結果を含

め、米国公共図書館での電子書籍の利用状況について紹介する。訪問したのは著名なボストン公共図書館と、サンフランシスコの対岸にあるオークランド市の図書館である。ボストン公共図書館は蔵書数が890万冊と有数の大きさであるのに対し、オークランド公共図書館は蔵書数が150万冊とかなり規模は小さくなるが、どちらも電子書籍を利用している。

### 時実象一

#### 1. 米国公共図書館における電子書籍利用状況

米国図書館協会（ALA）の The State of America's Libraries 2010<sup>1)</sup>によれば、米国の公共図書館5,400館が電子書籍かオーディオ書籍をサービスしている。そこに書かれている電子書籍サービスの最大手である OverDrive 社のデータでは、2009年の貸出し数は10月末までに100万を超しているとしている（ちなみに冊子体の貸出し数は22億冊（2007年））。また NetLibrary 社は貸出し数が前年の21%増だと述べている。ALAのデニス・デービスによれば<sup>2)</sup>、2008年の冊子蔵書数8.2億冊に対して電子書籍蔵書数はのべ1400万冊であり、前年比27%増であった。



ボストン公共図書館（左）とオークランド公共図書館（右）

米国の公共図書館では古くからオーディオ図書のサービスが行われてきた。もともとはカセット・テープのサービスだったが、それがCDになり、最近では iPod などにダウンロードできる MP3 サービスに移行しつつある。自動車通勤が主流である米国では、日本のように通勤電車で本を読むという習慣がなく、自動車を運転しながらでも聞けるオーディオ書籍が図書館を通じて普及したという背景がある。OverDrive 社はこのオーディオ書籍サービスの主要提供者であるが、最近電子書籍へサービスを広げている。Net Library は逆に電子書籍サービスとして出発し、オーディオ書籍にも手を広げたという経緯がある。このサービスは2002年に OCLC が取得したが、2010年5月に EBSCO が買収した。

## 2. 電子書籍の使い方

日本では個人向けの電子書籍リーダーとして Kindle や iPad がよく知られているが、一般に図書館の電子書籍ではこれらのリーダーは使えない。また大学図書館で利用できる学術電子書籍 (PDF, HTML) はダウンロードや複製・印刷が自由であるのに対し、公共図書館向けの電子書籍 (PDF, EPUB ほか) は複製や印

刷を制限する著作権管理機能 (DRM) が付いている点が大きく異なっている。たとえば OverDrive の書籍の形式は Adobe EPUB, Adobe PDF, Mobipocket などである。PC 上で Adobe EPUB や Adobe PDF を読む場合、利用者は事前に Adobe Digital Editions (日本で発売されている同名のツールとは異なるものである) というリーダーをインストールする。

OverDrive では Mobipocket 形式の本も提供している。Mobipocket は PC のほか、Palm や Blackberry などの PDA で読むときに用いる。PC では Mobipocket eBook Reader というソフトをインストールする必要がある。

NetLibrary では PDF を PC のほか Sony Digital Reader, nook (どちらも日本では非発売) で読むことができる。PC にダウンロードする場合は上記の Adobe Digital Editions が必要となる。NetLibrary は EPUB 形式では提供していない。

電子書籍を借りる際は、まず図書館の利用者登録が必要である。登録して、必要なソフトをインストールし、自宅から図書館にログインする。NetLibrary の場合は NetLibrary へのユーザ登録が必要である。その後読みたい本をダウンロードして読むことになる。貸出し期間は通常2～3週間であるが、期限が来ると自動的に読めなくなる。一般に印刷できるページ数に制限がある。

## 3. 電子書籍の購読

購読はさまざまな形態がある。たとえばオークランド市立図書館の場合、NetLibrary の購読料は年14,000ドルで、これには毎年400冊の新刊書購入代金が含まれる。

これはコンソーシアムの契約である。一般に人気のある本は同時アクセスできないが、古い本などは同時アクセス可能である。OverDrive の場合はシステム利用料として年14,000ドル支払った上に、本を別途買う必要がある。価格は1冊あたり12～15ドルで、紙の本 (図書館割引価格) より少し安い。また OverDrive についてはコンソーシアム契約でなく「直接契約」を要求されているようである。

ボストン公共図書館の場合は OverDrive をコンソーシアムで利用しており、加入している100～120館がすべて利用できる。

前述 ALA のデニス・デービスによれば、電子書籍の購読費用はかなりの程度州図書館の予算で支払われており、個々の図書館の経費として計上されていないことも多い。1996年に成立した図書館サービス及び技術法 (Library Services and Technology Act: LSTA) による連邦政府の補助金の多く (2007年度で8700万ドル) が電子書籍やデータベースの購読・購入に用いられていると思われる。州予算と公共図書館の予算を合計すると、2008年度に2億1500万ドル (約180億円) が電子コンテンツに使われたとされている (うち州予算は6000万ドル)。

なおオークランド市立図書館でもボストン公共図書館でも、電子書籍の導入は冊子の書籍購入とは並行しており、同じ本を両方で買うこともある。すなわちその分支出が増えるのが問題であると述べている。

## 4. その他の電子書籍サービス

主として大学図書館向けに学術電子書籍を提供してきた ebrary や



Adobe Digital Editions の画面

myLibrary が最近公共図書館向けのサービスを開始した。ebrary や myLibrary の電子書籍は PC 画面で見るだけでダウンロードはできない。ただし本に注やノートを書き込むことができる。ebrary は同時アクセスを許しているの、「貸出し」という概念はない。またオークランド市立図書館ではコンピュータ関連書籍の Safari Tech Books (O'Riley 社) も購読しているが、このように専門学術書籍の場合は、公共図書館も大学向けのサービスをそのまま利用している。

## 5. 問題点

おそらく最大の問題点は、個人向けの電子書籍サービスと図書館向けのサービスの間、ファイル形式やリーダーの互換性のないことであろう。個人向けには Kindle や iPad が伸びているといわれているが、これらは図書館サービスをサポートしていない。今後サポートする見通しも不明である。さらに図書館向け形式も前記のように複数存在する。

もうひとつは貸出し料金の問題である。現在は買い取り価格のみであるが、利用統計が簡単に取れるようになると、出版社が貸出し料金を要求してくるのではないかと、ポストン公共図書館の担当者は心配していた。そうすると図書館での電子書籍の利用には大きなブレーキがかかることになる。

また電子書籍サービス業者は個々の利用者の利用履歴を詳細に把握できるので、生の個人情報提供されないとはいえ、これについての管理が問題となると思われる。

## 6. おわりに

インタビューに協力していただいたボストン公共図書館のマイケル・コルフォード、デビッド・レオナルド両氏、オークランド公共図書館のランディ・マクデビットパークス氏に感謝いたします。

# 司書の卵が考える雑誌と新聞記事の提供サービス

伊藤民雄

筆者は一昨年、聖徳大学司書講習において「情報検索演習」の講師を務める機会に恵まれた。成績評価の一材料として課した受講生のレポートの出来に驚き、それをまとめる形で本誌2010年1月号に「司書の卵が考える情報検索環境の問題とその改善」を掲載していただいた。昨年も講師を務めることになったので以下の内容でレポートを課すことにした。

## レポート課題

『これからの図書館像—地域を支える情報拠点をめざして— (報告)』(平成18年3月) [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/18/04/06032701.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/18/04/06032701.htm) において、これからの公共図書館(特に区市町村立図書館)の在り方として、レファレンスサービスでの「雑誌記事や新聞記事の検索と提供」(いわゆる記事索引類の導入)、および「雑誌と新聞のバックナンバーの保持体制」を求めている。皆さんの近隣の公共図書館には、①雑誌や

## 参考サイト

- 1) State Of America's Libraries Report 2010. p.24. <http://www.ala.org/ala/newspresscenter/mediapresscenter/americaslibraries/>
- 2) Denise M. Davis. E-Books: Collection Vortex or Black Hole? Public Libraries, July/August 2010, 10-13, 53.  
(ときざね そういち: 愛知大学文学部)  
[NDC9:016.253 BSH:1.図書館(公共)—アメリカ合衆国 2.電子書籍

新聞記事索引データベースが導入されているだろうか。また②雑誌を保管・保存する書庫はあるだろうか。

まずよく使う公共図書館の種類(区市町村立図書館)を明記した上で、①のようなサービスが行われている(ように見える)か否か、②のような施設の有無を書きなさい(訪館したことがない人はホームページ等で調べなさい)。最後は、あなたが①②のどちらもない図書館のスタッフであると仮定して、①②を導入することにする。その時、あなたの頭の中に最初に思い浮かぶことを中心に200字前後で記述しなさい。

\*

課題設定の意図は次の2点である。一つは「情報検索」自体は情報サービス提供の手段であるが、パソコンを使った授業は一步間違えると「情報検索」自体が目的化してしまうため、他の科目(特に図書館資料論と情報サービス論)との関連性・継続性を意識させること。もう一つは、中